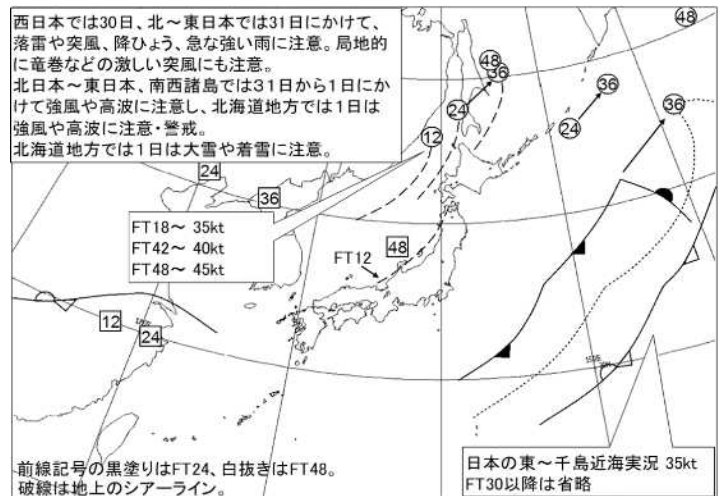


短期予報解説資料 2026年10月30日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 伊豆諸島付近から北日本の太平洋側の沖に地上のシアーラインがのびているが、関東の東の対流雲は次第に東へ遠ざかっている。
- ② 日本海では地上のシアーラインがのびて、西日本で雷を複数検知しており、岡山県と兵庫県で気象防災速報（竜巻注意）を発表。
- ③ 500hPa 5580～5700mに -18°C 前後の寒気を伴ったトラフが朝鮮半島から日本海付近にあって東南東進している。
- ④ 中国東北区には500hPa 5220m付近に -39°C 以下の寒冷渦があって、衛星水蒸気画像で循環が明瞭。寒冷渦周りの寒気を伴うトラフが南東進しており対応する低気圧が東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の太平洋側の地上シアーラインは日本の東をゆっくり東進し、30日夜までに不明瞭化。1項②の日本海の地上シアーラインは、30日夜にかけて北～西日本の日本海側沿岸へ進み、その後不明瞭化するが、シアーラインに向かう下層暖湿気や1項③の上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり雷を伴い激しい雨が降る所がある。また1項③の寒気を伴ったトラフが深まりながら31日にかけて日本付近を通過するため、引き続き大気の状態が非常に不安定となる。西日本では30日、北～東日本では31日にかけて落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 30日夜から31日にかけて、1項④の寒冷渦周りの5340m付近に -30°C 以下の寒気を伴ったトラフが北日本を指向。このトラフに対応して30日夜は日本海北部に新たな低気圧が発生し地上のシアーラインを伴いながら11月1日にかけてオホーツク海へ進む。また、31日朝までに1項③のトラフ前面にあたる千島近海で別の低気圧が発生し1日にかけてカムチャツカの東へ進む。日本のはるか東の高気圧とこれらの低気圧との間で気圧の傾きが急となり、北～東日本を中心に風が強く吹き波が高くしける所がある。北～東日本では31日から1日は強風や高波に注意し北海道地方では1日は強風や高波に注意・警戒。
- ③ 2項②の寒冷渦は、1日はオホーツク海まで進み、寒冷渦周りの寒気を伴ったトラフが31日夜から1日朝にかけて北海道地方を通過。この時間帯が上層寒気のピークとなる。また、1日は850hPa -9°C 以下の下層寒気も南下するため、降雪や積雪となる所がある。北海道地方では1日は大雪や着雪に注意し、標高の高い所を中心に降雪による交通障害に留意。

- ④ 中国大陸から東シナ海を経て、本州付近に高気圧が1日にかけて移動するため、31日～1日は西～東日本で晴れる所が多くなるが、この高気圧の縁辺にあたる南西諸島では、マリアナ諸島を西進している台風第31号からのうねりの影響が加わるため、31日から1日にかけてうねりを伴った高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：伊豆諸島 4、北海道・東北・北陸・東海 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無

「落雷・突風・降ひょう」を17時頃に発表予定。